

半世紀の歴史を振り返って

小椋貞夫（高5回、在京飯田高校同窓会副会長）

このたび在京飯田高校同窓会で会報を発刊することになり、その編集の方から標題についての原稿の執筆依頼がありました。私が適任者だとは思いませんが、三十年ほど在京同窓会の役員として、会の運営に携ってきたことからのご指名ではお引き受けするしかないと思つた次第です。

しかし、いざとなると、同窓会としては大した成果を上げてきた訳ではないし、正確な記録も残っておらず、記憶もあいまいなところがありますが、基本的に考えてきたことなどを踏まえて、当時のことを思い出しながら、振り返ってみたいと思

ます。

在京同窓会といえは原さん

在京の飯田高校同窓会は昭和二十八年五月の創立ですから、すでに半世紀の歴史を積んできたことになりました。

この同窓会のことを語るには、原正一さん（中30回卒、平成三年から平成五年まで会長を務める。平成十一年九月逝去）を抜きにして語ることはできないでしょう。

と申しますのも、原さんは在京同窓会発足時の設立メンバーの一人であり、発足後は役員として自宅を連



故・原 正一さん

絡場所とし、同窓会総会開催の案内状の作成・発送・会員名簿の整理・総会の運営・飯田の同窓会本部及び母校との連絡調整等、一切合切を一人で担当されていました。「在京飯田高校同窓会といえは原さん」という具合でした。今日まで、この同窓会が存続できたのも、生涯役員とし



原正一さんから記念品の贈呈（昭和63年11月11日）

てご努力された原さんのお陰である
といっても決して過言ではないと私
は思います。

山積する課題を前に

私は昭和四十八年ごろから、原さ
んからの話もあって、事務局の一員
として手伝うことになりました。い

つまでも先輩たちにまかせきりで、
若い後輩が何もしないということでは
いけないと考えたからです。

その当時の在京同窓会が抱えてい
た課題としては、

一、同窓会を運営していくための
財源は全くなし。そのためか、総会
の開催は年一回と規約に定められて
はいたものの、三年に一回しか開催
できなかった。

二、総会の出席者は旧制中学校時
代の限られた人たちが多くて、新制
高校卒の出席者が極めて少なく、同
窓会に対しての関心も薄かった。

三、同窓生の住所の把握が不充分
であり、広く参加を呼びかけること
が困難な状況にあった。

四、会の運営を担う事務局を強化
していく必要があった。

などでありました。

まず、考えなければならなかった
ことは、お金がなければ活動ができ

ないという当り前のことでした。総
会を開催しては赤字を作るとい
この繰り返したので、まずこれ
を改めることにしました。

改善に改善を重ねて

原さんはいへん正直で、人の良
い人でした。総会の出席者が百名で
あったとすると、百名分の料理を注
文してしまう。当日は二割程度の人
が必ず欠席になります。これが一
般の通例ですから、当然、欠席者の
分が収入不足となって赤字となりま
す。「仕方がない」と、自腹を切って
補っていたという状況でしたから、
まず、その面から改善をしました。

総会に出席した会員に負担してい
ただいた会費の中から、案内状の作
成や郵便料金、総会当日の費用まで
の一切を賄うというやり方でしたか
ら、財源をどのように調達していく
か。それにはまず、総会を魅力ある



若き日に思いを馳せて、校歌、応援歌を歌う

ものにし、一人でも多くの方々に参加してもらうにはどうしたら良いかという視点から、いくつかの方策を考えました。

同窓会・総会は毎年開催して、出席者を増すようにしていく。高校卒の方々に幅広く呼びかけていく。各期の代表の方々に同窓会評議員会の

委員になっていただいて、各期毎に参加を呼びかけ、出欠のとりまとめをしていただく。あるいは新聞紙上に同窓会開催の記事を掲載して広く参加を呼びかけるなど、試行を重ねてきました。

維持会費制を導入

同窓会を維持していくための経費を、総会に出席した会員の会費のみに依存していくことには限界がありました。総会の開催案内ハガキ（当時は往復ハガキ）を千五百枚ほど出す訳ですが、出欠の返事があるのはだいたい四百弱で、後は全くの無しのつぶてです。総会出席者はだいたい百〜百二十名程度でしたから、かなり無理がありました。

そこで、欠席される会員にも会の維持費用の負担をお願いすることとして、年千円の維持会費を負担していただく方法を取り入れて実施しま

した。これは今日まで継続して行っていることです。このお陰で、ある程度、財源の確保ができるようになりました。

また、経費の無駄を省くために、三年続けて総会に出席した方に、並びに維持会費を納入された方に限って案内状を出すように原則を定め、財源の健全化を図ってきました。

さらに、多くの方々に参加していただくためには、総会を魅力あるものにする必要があります。その一つ



当番学年は受付にも大忙し



老・中・青揃っての総会

として、各分野でご活躍されている同窓生の方に総会で講演をしていただくことにしました。これは今日まで、二十年近く続いているものであります。

”継続は力なり”

このようにして、毎年、総会（十一

月の第二金曜日）を開催してきたことによって、会員の住所も着実に把握することが出来るようになりましたので、平成元年には在京同窓会の会員名簿を作成して会員に配布しました。その後は、飯田の同窓会本部が五年に一度、有料で同窓会会員名簿を発刊することになりましたので、その方にまかせて、在京同窓会としては発行していません。

在京飯田高校同窓会が、このようにいろいろな事を積み重ねて半世紀を経た今日、会員向けの会報を発行するところまでできたことは、誠に感慨深いものがあります。

と申しますのも、ここ十年、平田会長のご指導によって、在京同窓会が非常に活性化してきて参加者が広がっており、今日では、飯田高校同窓会としては、在京同窓会が最も盛況な同窓会として、本部のある飯田を越えていることを実感しているからであ



青春の日々の血潮は熱く

ります。

”継続は力なり”と申します。同窓生の方々に参加し、協力していただくことが、会を維持継続していく上での大きな力であると信じています。さらに会員の皆様のお力で、益々発展していくことを心から念願しております。